

「英語学から見た英語コミュニケーション」

<要旨>

日常のさまざまな場面に現れる表現はすべて、英語コミュニケーションの研究対象となる。特定の表現を使う理由を考えると、英語学の知見は不可欠である。たとえば、話し手と聞き手、および文脈との関係の中で、伝えようとする表現の意味を特定するのは語用論の仕事である。また、英語は男性中心的言語からジェンダー中立的言語に変化しつつある。ジェンダーの観点からは、登場人物をどのように表すかも重要なテーマとなる。さらに、談話の中に現れる諺は、形式的には多様なバリエーションや部分改変があり、意味的にも文字通りの意味以上のものを伝えることがあり、それを明らかにすることも英語学的に、そしてコミュニケーション研究では重要である。本シンポジウムでは、ジェンダー（神崎）や諺（奥田）を中心に具体例を考えつつ、英語学から見た英語コミュニケーションの課題について論じたい。